

売上高初の200億円超

給与増などで利益減

決算

トラスコ中山が8日発表した2018年12月期業績予想は、売上高が初めて2000億円を超える。各利益段階は給与の引き上げや設備投資の増加などで減少する。同日、20年12月期の売上高を2430億円とする中期計画

売上高	1,950	(10.2)
営業利益	2,100	(7.6)
経常利益	142	(0.8)
当期利益	133	(▼6.8)
配当	145	(1.0)
	135	(▼7.1)
	101	(2.1)
	90	(▼11.0)
	39.0	(...)
	34.5	

トラスコ中山 (12月期単体)

単位億円、増減率%、下段通期見直し、▼は赤字・マイナス。配当の上段カッコ内は前期の実績、下段通期見直し

画を発表したほか、「順調にいけば5〜6年で売上高3000億円圏になる」(中山哲)

トラスコ中山
今期見通し

也社長)との長期展望も示した。事業拡大のため、19年12月期以降に中部、西部に大型物流施設の新社を検討する。同期に最大252億円の設備投資を計画する。17年12月期決算は売上高が2ケタ増だったが、利益は微増にとどまった。通販企業への卸売事業の売上高が同29・1%増の243億円と大きく伸び、工場向けも同8・1%増の1574億円と好調だった。利益段階では人件費や物流費の増加などが響いた。